

湘友会報 2004

第46号・2004年発行
湘南高等学校湘友会事務所
〒251-0053 藤沢市本町 3-1-3 湘南ビル 301
電話・fax 0466-50-0386
<原則として月・水・金の午後に事務所幹事室>
mail shoyukai@cityfujisawa.ne.jp
http://www.shoyukai.org

会報文中の氏名に付した○数字は卒業年次を表します。

2004 年度湘友会総会のご案内

多数の会員の出席を期待します。

日時 平成 16 年 6 月 26 日 (土)

受付 午前 10 時 00 分

開会 午前 10 時 30 分

場所 湘南高校内 湘南会館

総会終了後アトラクション (右記事)

午後 1 時: 懇親会 清明会館食堂 (校内)

懇親会会費 3,000 円 (当日会場受付で受領)

当日受付で 80 周年記念品 (記念誌・絵はがき) 湘友会名簿を販売します。当日は送料割引価格です。

総会運営の輪番参加と「10年会費」納入のお願い
～ 卒業回数末尾が「4」の
4・44・54・64 回生の皆さんへ ～

湘友会では 1997 年から「湘友会細則」により、会員の活動活性化のため、卒業回数の末尾が西暦の末尾の数字と一致する会員が、輪番で総会運営に当たるとともに、「10年会費 5000 円」を納入していただくシステム (1996 年までは毎年年会費を納入することになっていました) を実施しています。湘友会の年度会計は 46,000 名を越える会員にむけての会報発行や郵送費だけで、年間数百万円もの経費がかかり、近年単年度では赤字になっています。湘友会の健全財政を維持するために、10 年に一度の 5000 円の会費納入は、是非ともご協力をお願い致します。また、総会当日は、輪番学年に当たっている皆様のご出席をお待ちしております。

なお、今までお願いしなかった全 26 回生以前の方々の方々にも、今年は 5000 円の寄付をお願いしています。

また昭和 27 年卒業以後で今までの輪番年に未納の方は、郵便局の払込取扱票を使って、下記への 10 年会費振込みを必ずお願いします。

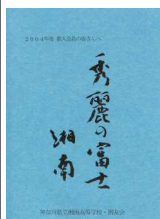
口座番号: 00250-4-14177

(右詰めに記入)

加入者名: 湘友会

金額: 5000 円

通信欄に 10 年会費と卒業年次を明記下さい



総会アトラクション 「講演会」

講師: 片倉 もとこ 氏

演題: 「ゆとり」と「くつろぎ」の思想
- イスラームの世界から -

<片倉もとこ氏 略歴>

旧姓新谷素子さん 1937 年奈良県に生まれる。



湘南高校 (31 回生) から、
1974 年東京大学大学院地
理学博士課程修了、理学博士。
津田塾大学教授 (1978 ~
1981 年) 国立民族学博物
館教授 (1981 ~ 1993 年)
総合研究大学院大学教授

(1989 ~ 1993 年) を経て、現在、中央大学総合政
策学部教授、国立民族学博物館名誉教授、総合研究大
学院大学名誉教授。主な著書に、「イスラームの日常世
界」(岩波書店)「アラビア・ノート アラブの原像を
もとめて」(筑摩書房)がある。

片倉もとこさんは、エジプト、サウジアラビア、
シリア、イラン、アラブ首長国連邦などの中東地域、
北米、地中海沿岸地域、パルト海沿岸地域、カリブ海
沿岸地域で民族学的調査を行う一方、国際基督教大学、
東京大学、東京外国語大学、大正大学で講師を務めて
こられました。また、コロンビア大学客員研究員 (ア
メリカ) プリティッシュ・コロンビア大学客員教授 (カ
ナダ) アラブ文献研究センター客員研究員 (アラブ首
長国連邦) 日本民族学会理事、比較文明学会副会長と
しても活躍され、エッソ研究奨励賞 (1984 年) 大
同生命地域研究奨励賞 (1991 年) など、数々の賞
を受賞されています。今回は、ご多忙の中お時間をい
ただき、イスラーム世界の思想について講演をお願い
致しました。皆様、どうぞご期待下さい。

湘友会小冊子「秀麗の富士 湘南」の作成

湘友会では、今まで新入会員 (新卒業生) に「湘友会バッジ」を贈っていましたが、一般的にバッジの着用習慣が薄れてしまっている現在では何かそれに代わる有効なものはと考え、入会案内を兼ね、また、若い会員に湘友会への理解と関心を持っていただきたいとの思いを込めて、小冊子を作成し贈ることにしました。

冊子は A5 版 16 頁に湘南カラー (スカイブルー) の表紙の小冊子です。今までの湘南の周年記念に発行されていた記念誌の記事を参考に、湘友会発足当時のこと、学校との関わりなどその歩みをたどりながら編集されたものです。命名は、校歌の最初の一節をとりました。

湘友会会員の皆様へ

会長 天野 武和



社会が行き詰まると「これまでの教育」にあらゆる問題の責めが帰せられ、「これからの教育」に国民の大きな期待が集まる。教育従事者には酷なものはあろうが、宿命のようなものかもしれない。

日本は今、歴史的な転換点に立ち、教育のあり方が問われている。しかし、これからの教育は、学校にのみ任せておくのではなく、社会全体が教育の重要性を認識し、学校を盛り立て、家庭はもちろん、地域社会や企業も、その向上に参画していかなければならないであろう。近時とかく問題視されていること、例えば社会規範をきちんと身につけさせたり、職業意識を植付けたり、「目標を持つことの大切さ」といったことを教育するのは、学校だけでなく外部からの語りかけこそが有効であるに違いない。

世界は知を競い合う時代となり、技術革新力、文化創造力といったものにさらに磨きをかけていく必要があるが、日本社会全体としての教育力ともいえるべきものが問われているのだと思う。

現下のいわゆる教育の構造改革では、競争原理が働くシステムの導入と思わせるさまざまな制度改革が行われはじめている。変革の渦中にある母校の先生方のご苦労も、お察しするに余りある。しかし、時代の変化は、湘南にチャンスをもたらしつつあるのではない。

神奈川県でも、県立普通科高校の通学区域が2005年度入試から撤廃されることになった。現在18の通学区があり、学区外からの入学者は各校の定員の25%以内とされてきたものであるが、東京都、和歌山県、埼玉県などに続く撤廃の由。公立小学校ですら子供や親から選ばれる時代に一步踏み出したのであるから、高校にあってはなおさらのことであろう。湘南にとって好機としか言いようがない。

伝統に甘んじず、これを上手に活用して、湘南高校が中学生とその保護者に一層魅力ある高校になる努力

をすることが、今期待されている教育活性化のひとつにもつながるのであろう。その為に先生方は頑張っておられるのであるから、私達湘友会の会員ひとりひとりも、中でも若い会員が、身近なところから支えていていただきたいと思うのである。

現役生徒は、先輩の言動を通して社会を垣間見ており、中学生とその親は、湘南の卒業生の姿を通して湘南高校の評価をしているのだから。

伝統のつくる雰囲気の中で

湘南高校校長 大澤 知来



月日のたつのは早いものです。ついこのあいだまで冷たい雨風にコートの手を立っていたのに、「暖かくなったね」と言葉を交したのもつかの間、いつの間にか桜の花も散り、今は、すがすがしい青葉、若葉の季節を迎えており

ます。学校も、新入生を迎え入れて、新しい年度が順調にすべりだしました。

グラウンドや体育館では、例年の如く、新入部員を迎えて各部の練習に活気があふれ、元気な声が響いております。湘南生は、部活動で汗を流しつつ、学習活動はもちろん、文化祭・合唱コン・体育祭等の生徒会行事や、これら行事と並行して進められる対組競技に精力的に取り組み、明るくこなしていきます。

この明るさと集中力こそが、湘南生のもつ最大の魅力であると、私は考えております。私は、生徒の元気な声を聞き、明るく駆け回る姿を見るとき、彼らが正に青春の真っ只中にいて、高校生活を最大限に謳歌しているのだという思いをもちます。それとともに、これが伝統のもつ力であり、伝統がつくる雰囲気なんだと考えます。湘南生は、この雰囲気の中で、人間として大きく成長し、やがては社会において活躍できる、たくましい人間に育っていくものと信じております。私は、それを見守っていききたいと思います。

2004年度輪番幹事雑感

輪番幹事役 太田 34

藤沢支部幹事会の席上、一年先輩の江崎さんから「太田さん、輪番幹事やってくれない。大した役じゃないから」と騙されて、結局引き受けることになった。講演者を誰にするかが初仕事になったが、三年先輩で、旧知の片倉もとこ氏に連絡したら「いいわよ」という、なんとも頼もしいお返事。なにしろこの方は、日本のイスラーム研究者の第一人者といわれる大層なお方である。夫君の片倉元イラク大使を、表で裏で支えた方でもある。おまけに湘南には珍しくと言ってしまおうとほかの女性軍に失礼に当たることになるが、伝説の美人なのである。彼女が颯爽とグラウンドを走るときは、ニキビ面したギャラリーが大集合し、熱い視線を送っていたものだそうである。

そんな方から、いま注目のイラク、そしてイスラーム世界の話が聞けることになった。特に、彼女が身近に見たフセイン元大統領の素顔など、とっておきの話も聞けることになっているので、是非、6月26日(土)には、奮ってご来校願いたい。

湘南高校 Now

3学年とも8クラスに

昨年までは、さまざまな行事で雨に降られることが多かった湘南高校だが、去る4月6日は、さわやかな春の日差しの中、82回生の入学式が行われた。今年度で3学年とも8クラスとなり、かつて一番多い時代とは異なり、24クラス、各クラス40人というこじんまりした雰囲気になってきた。生徒が減少すれば職員の定数も減るため、職員室の机の数もやや減少している。にもかかわらず、生徒たちは今までと変わることなく活発に部活動にいそしんでおり、職員の部活動顧問の割り当てに、担当職員が苦慮している状況である。

活発な部活動

昨年度の各部活動の成果を見ると、フェンシング部の関東、全国大会出場をはじめ、水泳部の関東大会出場、硬式テニス、バドミントン、男子バスケットボール、サッカー、体操、ソフトテニス、卓球、陸上などの各部が、それぞれ県大会出場を果たしている。また運動部ばかりでなく、吹奏楽部が県大会出場、茶道部が高文連高校生茶会で教育長賞を受賞するなど、文化部もがんばっている。



「湘南新聞」復刊

ここ3年半ほど休刊していた「湘南新聞」が復刊した。部員減少でほとんど活動できない状態であった新聞部だが、新部員たちの熱意で編集活動再開を実現させたのである。

学習

勉強の方は、新教育課程の最初の学年が2年生となり、5時限目まで授業のある日が一日増えた。昨年度までは、毎週月曜日と木曜日が5時限目まであり、午後4時まで授業が行われていた。今年度はさらに、2年生のみではあるが、第2週の火曜日に5時限目が設定された。ますます部活動等の活動時間への影響が出るものと思われるが、生徒たちはうまく時間をやりくりしながら、活発さを失わずに熱心に行っていくことであろう。

(校内幹事 服部 悠)

2004年春の職員異動

(略)

ウェブ版湘友会報についてのご説明

ウェブ版は、会員のみならず会員以外の不特定多数の方々にも参照されるため、次の改変を行っていますのでご了承ください。

会員の氏名は、名前は削除し、姓のみ記載。また、連絡先住所電話番号等は削除。
ただし、会長、副会長、校長先生、著名な方、故人の姓名は原文のまま。

決算・予算報告、教職員の異動、委員会等の組織の構成員のリストは割愛。

湘友会ウェブマスター

定時制部会より

定時制部会長 田添 正

1. 湘友会入会説明会及び卒業式について

定時制部会では、昨年度より卒業年次の担任から要請があり、卒業生に対して湘友会入会についての説明会を2月に実施し、今年も2月3日に実施した。平成15年度(第53回)卒業式は3月11日に举行され、卒業生58名中10名に、昨年度から3年間で卒業できる制度が適用された。なお、卒業生には記念品代として、卒業アルバム制作費の補助を行った。また最近の特徴としては、外国籍(南米や東南アジア)の生徒が各学年に数名含まれ、民族衣装で卒業式に華を添え、国際化の現象が見られることである。

2. 平成16年度の行事について

4月6日(火)/入学式、5月/定時制部会報発行、6月20日(日)/文化祭当日定時制部会総会開催、10月上旬/体育祭、11月中旬/修学旅行、3月上旬/卒業式
なお、体育祭および全国大会出場者には部会として些少な補助を行っている。

3. トピックス

平成15年8月に国立競技場で開催された第38回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会に、県大会を勝ち抜いて本校から3名が出場し活躍をした。中でも、今年3月に卒業した永井さん(3年生)は昨年に引き続き200mで優勝し2連覇したほか、400mで2位、400mRで3位に入り、神奈川県男女総合優勝に貢献した。

通信制同窓会（むつみ会）より

出合いをたいせつに

むつみ会会長 若命徳達

私達は、多くの人と出合い、お世話になり、お世話したり？しているが、その中で一生お付き合いできる仲間は何人いるだろうか。人とお会いできる機会には極力参加して、多くの方から多くのものを吸収したいものだ。

世は正に情報化時代、テレビやラジオ、パソコン等情報機器で得るのもよいが、人に会う機会を多く持ち、お互いに語るにより、生で表裏の情報を得る機会を持ちたいものだ。

私は印刷業を30年余りやっているが、多くのお客さんから定年退職されて年賀状の枚数が現役時代と比べて、年ごとに少なくなって非常に寂しいと何う。また、現役時代は仕事を中心に生活のパターンが出来てしまい、生活の糧であるべき自宅を中心とした人間関係や、趣味の仲間とのお付き合いまで、なかなかまわらなかったと耳にする。

人の一生を大きく分けると20歳までが社会人としての準備期間で、60歳までが現役で社会に貢献し、60歳以降は今までの総仕上げ、ここでは人生を楽しむ送りたいものだ。そこで問題になるのが人付き合いが少なくなる中での仲間づくり、毎日有意義に過ごす為の情報交換ではないかと思う。私は、これからの数々の同窓会・同期会には参加し良き仲間を得、年相応に喜怒哀楽をお互いに味わいたいものだと思っている。

支部だより

藤沢支部

2003年8月23日（土）18時より藤沢グランドホテルにて、恒例の「夏の集い」が開催され、前神奈川県知事岡崎洋氏（25回生）が「県知事2期8年を振り返って」と題して講演した。岡崎氏はもともと国家行政の中枢にあって活躍してきた人だが、県知事に就任以来、赤字を抱えた県政と国との間で、大変苦労されたことが忍ばれた。清廉を絵に描いたような卓越した人格者だっただけに、その引き際の清さには、県という枠を越えて惜しまれたことも頷けた。講演の後の立食パーティーでは、先輩後輩間の交歓の光景が微笑ましく、恩師を囲んで尽きない思ひ出話に花が咲いた。2004年度はどんな「夏の集い」になるのか、注目していただきたいと思います。（太田³⁴）

茅ヶ崎支部

支部総会は11月23日に阿部浅本店で67名の出席者を得て開かれ、来賓として原総括教頭・添田先生・

天野会長をお招きした。例年支部総会は総会・講演会・懇親会の3本立てで行われ、夕方4時から夜8時までたっぷりと楽しくかつ有意義な時間を過ごしている。

ここ数年来寒川の同窓にも声をかけ多数の参加をいただいているので、正式に両者を合わせた支部を作ったかどうかと云うことも話題になっている。

今年の講演会は前茅ヶ崎文化資料館学芸員・岸氏に「茅ヶ崎を中心にした湘南地域の自然の移り変わり」について講演をいただいた。都市化のなかで消えて行く動植物や反対にしぶとく増えているものもあり、地域の第一人者である岸先生の話に、自分達の幼い頃に親しんだ自然を重ねて、興味深く聞いた。

（篠田³³）

平塚支部

平成15年度の支部総会を2003年11月15日（土）17時からスポーツプラザ神奈中平塚で、約50名の会員の出席を得て開催しました。宮代幹事長³⁵の開会のことばに始まり、飯島支部長³⁶の挨拶に続き、来賓の湘友会天



野会長、湘南高校大澤校長に母校の近況を含め挨拶をしていただきました。議事後、内田さん⁴²が

唄うシャンソンの名曲を聞き、写真撮影、懇親会へと移り、楽しい一時を過ごしました。今年度の支部総会には、昨年に引き続き、山本氏がお元気な姿を見せ、また望月氏²²は兵庫県川西市から遠路出席いただきました。終わりに、湘南時代を思い起こし、全員で校歌・応援歌を斉唱し散会しました。

（田中³⁸）

鎌倉支部

鎌倉支部は逗子・葉山を含めて活動し、数年ごとに総会を開き、毎年幹事会を開いている。2004年5月15日（土）5時半から、鎌倉の二の鳥居前の浅羽屋で、幹事会が開かれた。湘友会の天野会長にもご出席いただき、湘友会の様子を伺い、各自の近況やこれからの活動について話し合われた。

この幹事会は、毎年春に開かれ、過去・現在の鎌倉・逗子・葉山に在住・在勤の方なら自由に出席できます。気軽に下記へご連絡下さい。（内海³¹）

事務局： 志賀野⁴⁷

湘北支部

2003年7月27日（日）午後2時～5時ホテルラポール千寿閣（町田市）に於いて32名の参加者により開催しました。廣井支部長の挨拶に始まり来賓の湘友会天野会長より母校の近況報告がありました。

本年度の活動方針は更なる会員相互の親睦の輪を広げるために継続して機関紙の発行とグループ活動の推

進を図ってまいります。支部地区内の校友の皆様の参加をお願い致します。(福室 瑠)

1. 機関紙「湘北の薫り」第3号の発行(H16.1.30発行)

2. ウォーキング部 年1回実施

昨年は11月に海老名国分寺周辺ウォーキングを実施

3. ゴルフ部 年2回実施 昨年は5月・10月に長竹GC支部以外の方の参加大歓迎いたします。ご希望の方は下記に連絡下さい。

渡邊

学年便り

10回生 悠久の会

2003年5月25日「悠久の会」第4回を恒例の通り、東京八重洲口ルビーホールにおいて開催しました。本年は、毎年出席している数名が家庭の用事で不意ながら欠席したため8名となった。代表幹事の中村氏の挨拶、小市氏の乾杯の音頭で開始し、毎年わざわざこの「悠久の会」にご来賓の添田先生の、特に赤木校長の逸話なども交えたお話を伺い、続いて出席各員の近況や思い出等、時間も十分あり、興味深く聞くことができた。

渋谷氏(旅順工大卒)は在外諸大学の戦後の同窓会等の動向について、出縄氏は地名「湘南」の更に詳細な資料も出して話をされ、広田氏(医師)は、湘南卒業後水産講習所に希望に燃えて入学したが、途中父親の切なる願いにより退学、医学校に再入学して医師の道に進み今日に到ったが、医者として健康な生活を送り現在もお陰で健在であるが、開業医は廃業した由。原田氏は平塚において電気工事関係の事業を手広く経営し、湘南高校新設工事にも応援された由。小市氏は学究の徒として真摯な活動を続けておられる。下野氏は、新潟高校時代の思い出や海軍技術将校として戦時下フィリピンで戦線で大変な苦労をされた由。中村氏は既に立派な中村病院を経営しておられるが、発展に手狭となり、隣接の地に7階建ての新館をこの5月竣工し、毎日を多忙に送っている。「悠久の会」は、来年も5月に開催することで、再会を約して14時30分散会した。(曾我 記)

12回生

本年も同期会を開催することができた。2003年5月10日(土)去年と同じ地元の日本料理『ひよく』で午後1時、大阪、茨城県東海村などからも、13名が出席した。去年からこの1年の間に、5名の他界者が出た。150名前もいた同期生が、確認できる現存者はついに30名となったしまった。それでも、当初の出席予定者は16名であった。事故のため神経麻痺で歩行困難な者も、家族の支援を得て、杖をついて出



席してきた。青春時代を語り合うのが、老人の生き甲斐である。来年もまた、きっと会おうとの気概に燃えて、午後3時散会した。(溝延 記)

16回生

2003年4月16日正午より、湘南中学第16回生同期会を横浜中華街の華都飯店で開催し、同期生



31名の参加を得て、和気藹々の内旧交を温めた。席上幹事より物故者が半数を超えたと報告があり、

会員が略80歳と高齢になったので、何年までこの会を続けるか、そろそろ解散の時期ではないかの意見があり、4年後の鎌倉逗葉組の会までは続けたいとの希望を述べた。尚、物故者のリストも年代別に分類し、年毎に追加できるように編集し直した。会の解散も鎌倉逗葉組の会の時に賛否を問うことにした。次回は東京組なので、当面江橋君に強引に主幹事を引き受けてもらうことにした。本年中には日本人の平均寿命80.06歳を超えるので、それぞれ覚悟せざるを得ないが、くたびないように頑張ろうと再会を誓い合った。

(横浜組幹事 土井・水田・木戸・新井)

18回生

2003年は昭和の年号でいえば昭和78年になります。昭和18年の卒業生は卒業60周年にあたり、早いもので人に喩えれば還暦を迎えたわけです。

今回の同窓会は、横浜地区が世話人となり横浜駅東



口にある崎陽軒本店で開かれましたが、恩師添田先生をお迎えして総勢50名の集まりでした。

この1年に他界された同窓生は3名であり、体調を崩しておられる方も多くなりましたが、西は神戸、北は福島からとこれだけ多くの同窓生が集まったのは何よりでした。昭和12年日中戦争、昭和16年太平洋戦争と私たちの中学生生活はまさに戦争の時代であり、厳しい思い出の多い年月を過ごしたものです。しかし、今になってみると私たちはその厳しさのなかから多くの事を学んだと思います。そうした思い出の数々に歳も忘れ、楽しく歓談した一時でした。歳は争えなく外出の難しい方も増えてはいますが、添田大先輩の励ましのお言葉もあり、我々18回生は、今後も毎年この同窓会を続けていく所存です。いつも思うことですが、湘南中学の校歌はいい歌です。今回は赤羽根さんの音頭で斉唱しましたが、皆さんの若返った顔と張りのある声が印象的でした。(石川記)

20回4卒の会

2003年10月9日、予定通り藤沢グランドホテルにて総会を開催し、会員61名が元気に集合しました。蒲田君の司会で開会、副会長が歓迎の挨拶をし、来年が喜寿・再来年が卒業後60周年になる事にも触



れました。
ついで11組担任だった高梨先生（4回生）

と、物故会員7名を偲んで黙祷した後、細君の指揮で校歌を大合唱しました。来賓の春原先生（45組担任）は、93才におなりになるご老体にも拘らず、起立したままでご挨拶をなさり、我々に大きな感銘を与えて下さいました。

一部を終了後、二部の会場へ移動し、下里君による全体記念撮影。司会が加藤君に交替し、中原君の音頭で乾杯。アルコールが入って大いに盛り上がり、久々に旧交を温めあいました。八木君の鎌倉シルバーボランティアガイドの大変ユニークなスピーチや、金子君の医師の立場からの日常生活に対するアドバイスのスピーチ等が続いているうちに、楽しい時間はどんどん経過し、大盛会で終盤を迎えました。石川君の閉会の辞のあと、石川君の三本じめで名残惜しい会もお開きになり、来年・喜寿の総会での再会を約して散会しました。なお、当日の欠席会員には、総会次第や会員消息等をのせた「会報」が別途郵送されました。

（植木 記）

23・24回生

2003年10月11日（土）清明会館にて、二三四会総会を開催した。隔年開催していたが、本年より毎年開催とし、添田先生のご出席を賜り、57名の会員が参集した。1993年に、入学50年目を記念に創刊した同窓会誌「われら黄金時代」に、創刊のことばとして、「現在のお互いを確認し、これからも一緒に楽しく付き合っていく絆としたい」と書いた諏訪君は、今は歿いが、本年度に第6号の発刊を予定している。

（大藤 記）

27回生「古稀記念同期会」

過去20余年にわたり毎年行われてきた「27期会（通称・不作会）」が、平成15年は、6月14日（土）13時より、藤沢産業センターで開催された。気候不順の中、当日の天気にも恵まれ、添田、武藤、小山、望月の4名の恩師の諸先生と湘南高校の大澤校長先生を来賓としてお迎えし、会員115名が賑やかに参集した。福元君の司会により、幹事クラス35組代表の蟹江実行委員長、27期会の和田会長夫々の挨拶を皮切りに、恩師望月先生と大澤校長から、丁寧なご祝辞を頂戴した。その後、年間経過報告、会計報告が福井事務局長、宮治会計幹事からなされて総会事項を済ました後、齋藤君の発声による乾杯を合図に懇親会に移

り、約2時間半にわたり和気あいあいの和やかな雰囲気の中で、お互いに旧交を温めた。当年は会員の大多数が70才の古稀を迎えたので、唐の詩人杜甫の詠んだ「曲江」を出典とする「古稀」の由来につ



いて、槇君が熱心に蘊蓄を傾け、中味の濃い“講義”に一同感心し

て聞き入った。その後池田君のインタビューで、出席4名の恩師の先生方から貴重なお話を伺ううち定刻も迫り、例年通り次年度幹事クラス（36組）への引継を行った後、出席者全員で校歌・応援歌を合唱した。リード役の杉野、福井君に加えて、前湘友会会長の杉山君や39組の小泉君が飛び入りで音頭をとるなど、最後は盛大な大合唱の中、明日の健康と充実した日々を祈り、またの再会を約した高野君の閉会の挨拶でお開きとなった。なお、当日はささやかな記念品として、杜甫の詩を白抜きにした藍色の手拭に解説文を添えて出席者全員に配ったが、大変好評であった。

（守安 記）

30回生

平成15年11月22日（土）午後3時より藤沢市民会館にて第13回同期会を開催、恩師6名のご出席を賜り、同期94名も各地から参集し、記念撮影・黙祷等の後、恒例の若き女性の演奏を聴きながら、旧交を温め楽しい一時を過ごした。終わりには、「校歌」「青春の歌」「青い山脈」を合唱、また会う日を約して閉会、いつものカステラを手土産に家路の人となった。

私達30回生の同期会は、卒業25周年（昭和55年）を第1回としてスタート、当初は4年毎、途中より2年毎、還暦以降は毎年開催してきた。来年（平成17年）は、卒業50周年の記念すべき年であり、これを祝して、来春に同期会と併せて、同期生の趣味の作品展示会のイベントを開催することにした。

（遠藤 記）

31回生

12回目の同期会を、平成15年9月7日（日）午後4時より鎌倉芸術館で開催した。高齢化社会を迎え私達が知らなければならないことを「みんなで知ろう成年後見制度」という講演で、司法書士酒井君からされ、好評だった。武藤先生もお元気な挨拶をされ、天野君の湘友会長激励会も兼ねたので、葉山君より天野会長への激励の言葉や湘友会総会などには皆で出席して天野会長を支えようと話合った。湘友会の会計が単年度では赤字の状況が話され、カンパを募り、31回生として20万円を湘友会に寄付した。

なお、今後会計は江島君、通知作成は根本君、受付は女性、調整は内海が当たることになった。

（内海 記）

33 回生

卒業以来44年間、各クラスでの会合はそれぞれ開いていましたが、学年としては集まることがありませんでした。昨年輪番幹事として湘友会総会の運営に関わったのを機会に各組の幹事の間で話がまとまり、初の会合を持つことにしました。総会後発起人会と称して有志が集まり会合の段取りを相談しました。その際、会の名称を33に因んで「燦々会」とすることにしました。そして10月24日横浜ベイシェラトン・ホテル&タワーズで盛大に「創立総会」を開催しました。当日は松下先生もご出席され97名の同期生と一時を楽しく過ごされました。先生のご挨拶と乾杯のご発声でスタートし、発起人の代表が経過を報告した後、卒業以来初めてという顔が多いということで、クラス毎に壇上に上がり自己紹介をしました。楽しい時間はあっという間に過ぎ、お開きになりましたが、来年からはクラス順に幹事をやり、最低8年は続けようということになりました。(江崎 記)

36 回生

平成15年9月13日(土)午後5時より横浜駅東口の崎陽軒本店にて、第9回同期会を2年ぶりに開催した。各クラス毎の持ち回り幹事でスタートした同期会は幹事当番が一巡し、再度38組が担当した。特に今回は全員が還暦を迎えたことから「還暦祝い」を兼ねての開催となった。当日は恩師のご出席はご都合により得られなかったものの、前回より約5割増の90名が出席し、盛大な会となった。卒業後初めて参加した人、米国や大分・広島の遠方から駆けつけてくれた人もおり、2班に分かれて記念撮影をした後に会が始



まった。我々が入学した昭和33年は、入試直前に本館が火災により焼失した年であったが、以来45年の歳月を経て、当時の紅顔の美少年または可憐な乙女も全員が還暦という人生の節目を迎え、各々が年齢にふさわしい風格が感じられたが、歓談が進むうちに昔と全く変わらない会話となりおおいに旧交を温めることができた。予定外のデュエットも飛び出したが、湘友会本部報告、クラス毎の近況報告、次回幹事の37組にバトンタッチした後に全員で校歌斉唱し、誠に心残りではあったが予定の7時半過ぎに無事終了し、お土産のシウマイと記念写真を手土産にクラス毎の2次会や家路についた。尚、会費残金の一部から湘友会本部に寄付をさせていただきました。(榊原 記)

54 回生

2004年1月11日(日)山下公園前のザヨコハマホテル(旧ザ・ホテルヨコハマ)において卒業25年を記念し、54回生同窓会を開催しました。当

日は天候にも恵まれ、恩師15名、卒業生の4割強にあたる約240名が全国各地より駆けつけましたが、中には卒業以来一度も集まったことがないクラスもあり、久々の再会となりました。

54回は最大規模だった12クラス制がスタートした学年。昨年夏、有志が集まり開催の是非も含めて議論を重ねましたが、開催決定後は目標に向けて熱中した高校時代を思い出し、総勢15名近い幹事が役職を分担して開催にこぎつけました。

会場では、高校時代に流行った曲をBGMに、体育祭やスポーツ対抗、修学旅行など懐かしい写真・映像を上映。河西君と牧嶋さんの息の合った司会で、参加者は一時、昔に戻ったような気分でした。予定した2時間も瞬く間に過ぎ、最後は地主応援団長の指揮の下、校歌を斉唱して散会しました(なお、会費より10万円を湘友会に寄付し、今後の運営に役立ててもらうことにしました)。(杉本 記)

64 回生

64回生は、本年1月3日(土)藤沢グランドホテルにて学年同窓会を開催致しました。今回は「卒業から15年 湘南の風とともに・・・」というキャッチフレーズのもとに、石塚、宮代、諸原、子安各先生方にも参加頂き、約170名の同期生が集結しました。海外や地方で活躍する同期も多く、今回はメッセージ



のみの参加となった方が多数となったものの、スタートからいきなり盛大な会となりました。

本年の3月に退職なさる宮代先生、また昨年3月に退職され現在は北里大学にて教鞭をとられている石塚先生の退職のお祝いセレモニーを挟んで自己紹介タイム、葉山君の飛び入り参加、記念撮影などで最高に盛り上がりしました。

その余韻は冷めることなく二次会、三次会、四次会へと引継がれ朝を迎える同期も多く、そのパワーを実感した次第です。次回の学年同窓会は、3~5年後を予定しております。その頃には我々も40歳少し手前、更に素晴らしい少しは渋みを増した会になる気がします。湘南の風を忘れずに、また皆さんとお会いできることを楽しみにしております。

(代表幹事 丸木 記)

- 今回の同窓会開催により同期の連絡先がだいぶクリアになりました。今後転居やメールアドレスの変更等があった方は以下へご連絡下さい。

(略)

いろいろ湘友会

湘籠会（バスケットボール部シニアOB会）第9回総会

バスケットボール部は、かつて、湘南中学校または湘南高等学校のバスケットボール（籠球）部に所属したOBの内、還暦を過ぎたOBのみを正会員とするシニアOB会を「湘籠会」と名付けて組織し、毎年6月末に、藤沢か横浜を会場にして親睦会を開催しています。第9回総会は、2003年6月28日（土）午後3時より、JR 横浜駅東口の崎陽軒本店で開催。当日は、



顧問の元教諭の齋藤先生と現教諭の石井先生も出席、合計44名が集まりました。新会員として、37回生のOB6名が入

会し、現在、総勢105名が会員になっています。

第10回総会は、平成16年6月末に、新会員として38回生を迎え、会場を藤沢に移して開催する予定です。（会長 杉原 ）

横浜湘南会

2003年11月21日（金）午後6時30分より、本年も相鉄グループの横浜駅西口「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」にて第14回“横浜湘南会”を開催。

岡崎氏（昭和25年卒）や齋藤氏（昭和26年卒）もわざわざ参加いただき、恒例の小栗さん（昭和60年卒）の名司会のもと、後藤支部長（昭和38年卒）の挨拶に始まり、天野会長（昭和31年卒）より湘友会の現況報告があり、岡崎氏より県政時代の御礼の挨拶の後乾杯、初参加の畠山氏（昭和35年卒）の挨拶、推理作家の齋藤氏より危機管理に関する話などがあり、また別会場で同期会を開催していた堀田副会長（昭和28年卒）のグループから数名の飛び入り等もあり、常連や新顔35名と例年より大分少ない人数でしたが、思い出話や商談に花を咲かせ賑やかに秋の一夜を過ごしました。最後に原田君（昭和37年卒）のエールで校歌を斉唱し、来年の再会を約して散会。

（事務局 片岡 37）

福祉湘友会

2003年7月19日（土）母校会議室にて「不況下の生活保護の現状」をテーマに研修・懇親会を、本年1月17日（土）さいか屋8F煌蘭にて総会・新年会を開催。研修会の1ヶ月後、



講師を務められた全52回木村倫子さんが急逝されました。ご冥福をお祈りしたいと思います。

本年の総会で会則の一部を改正、会員に一般会員と

情報会員の二種を設けることになりました。次回は7月17日（土）に藤沢市立白浜養護学校にて「養護学校の現状とこれから」をテーマに研修と懇親の会を開催する予定です。問合せ・連絡は、奈倉まで

（幹事 奈倉 37）

霞が関湘友会

平成15年5月15日、霞が関湘友会総会が東京の霞山会館で開催された。霞が関湘友会は、中央省庁に勤務している者及びそのOBで構成しており、昭和62年4月に発足し、今回が第9回の会となった。

当日は、会員67名が出席し、堀田先生（湘友会副会長）、鈴木先生（神奈川県サッカー協会副会長）、川田先生（湘友会校内幹事）の3名の恩師をお迎えし、また、来賓として亀井善之農林水産大臣（30回）、天野湘友会会長（31回）のご出席を頂いた。式の最後は、休日はアマチュアオーケストラで活躍中の石寺君（36回）の華麗な指揮により校歌を斉唱して、盛大に締めくくられた。亀井大臣には、総会終了後の写真撮影まで御臨席いただき、大盛会となった。今回の会に合わせて霞が関湘友会の名簿も全面改定されたところ、それによれば、会員は23省庁等にまたがり、総計275名であることが判明した。また、霞が関湘友会会則に基づき以下の役員が決定した。

（役員体制割愛）

（井出 44）

西日本支部

第12回西日本支部総会は、2003年11月29日（土）午後4時より、会場は例年のように大阪・天満の「福屋」で開催された。支部長・幹事長は変わらず、井澤³²、鈴木³⁵である。この支部会は、総会と懇親会が一緒になったような会であり、また午後4時から8時半迄も続く和やかな会でもある。幹事長自ら腕に撚りをかけて作ったふく料理のフルコースを味わいながらの話がはずむ。雨天のせいか去年より出席がやや少なく、三十数名であったが、今年の主賓は何と言っても脇村さん²⁶であろう。この程高校野球連盟の会長に推挙された。昭和24年野球部の全国制覇で、母校湘南に優勝旗を齎した中の一人である。今年、岐阜高校から試合を申し込まれ、岐阜高校が7：1で湘南に競り勝ち、五十数年ぶりに雪辱を遂げたという話や、現在は大学院生であり、その理由は学士入学より格の高い院生ならばというお話など、いろいろ面白いお話を伺った。自ら関西湘友会特別会員を名乗る元参与の澤先生²²から、再来年から学区の撤廃のことや大学進学状況についての話があり、その話が終わってから各自の自己紹介に移った。なお、本年の総会は、11月27日（土）の予定です（鈴木 35）

トピックス

時を越え、熱戦再び！

対岐阜高校親善野球試合開催される

平成15年11月16日、母校野球部は全国屈指の伝統校であり、岐阜県下きっての名門・県立岐阜高等学校の学校創立130周年記念事業の一環として開催された親善野球大会に招待され、岐阜長良川球場において岐阜高校と対戦した。岐阜は野球どころとして知られ、過去にも多くの名選手を輩出させている。長良川球場もプロ野球の公式戦が開催される立派な野球場であった。

岐阜高校は、湘南が昭和24年、全国優勝を成し遂げた時の決勝戦における対戦相手である。この甲子園決勝戦の再現試合が、学校創立記念の公式行事として企画され、遙かに時を越えて、54年ぶりに開催されたのである。

開会式では、優勝メンバーのひとりである高野連会長・脇村春夫氏（26回生）が挨拶にたち「創立130年を迎えた岐阜高校への祝意と、岐阜県学生球界における岐阜高野球部への期待」を述べ、スタンドからの大きな拍手を浴びた。

始球式では、田中野球部OB会長（25回生）がマウンドに立ち、打席には当時・岐阜高のトップバッターであった服部昌三さんが入る、という球趣を盛り上げる演出がなされた。試合は捕手、遊撃手など守りの中心選手に故障者が出ていた湘南が、7対1で完敗を喫し、残念ながら甲子園決勝の雪辱を許す結果となった。湘南高は1年生バッテリーが頑張りを見せた。

当日、湘南高校からは大澤校長をはじめ、甲子園優勝メンバー（6名）などOB会の面々、野球部父母会など多数が応援に駆けつけた。岐阜高サイドも西武ライオンズ・横浜ベイスターズの監督を務めた森祇晶氏、長嶋監督の前の全日本監督であった後藤寿彦氏など多くの野球部OBの姿が見られた。

日曜日にもかかわらず、岐阜高校生がスタンドを埋め、三塁側の応援席では岐阜高応援団による湘南高校に対する終始熱心な応援が続けられ、湘南関係者をいたく感激させた。

閉会式では、甲子園と同じようにセンターポールに勝者である岐阜高校旗が校歌の演奏のもと高々と掲げられ、記念イベントは成功裏に幕を閉じた。

夜、地元ホテルにて、岐阜高野球部OB会の招宴により、湘南野球部OB会との懇親会が開かれ、往時をなつかしく回顧しあった。

昭和24年の決勝戦は、戦前の予想では岐阜高校を有利とする声が圧倒的であった。事実、序盤3点をリードし優勢に試合を進めながら後半、湘南の粘り強い反撃にあい、真紅の大旗が掌中からスルリと逃げてしまったのである。春夏あわせて6回の甲子園出場を誇る岐阜高校は、まさに千載一遇のチャンスを逸したのであった。往時の岐阜高メンバーの胸中はいかばかりであったろう。

両校OB会の懇親会は物故者への黙祷からはじまった。戦後の混乱期を経て、高度経済成長時代を支え続けた優勝メンバー世代。国家の瓦解と繁栄という、まさに「一身にして二世を生きる」とでも言うべき体験をした偉大な先輩たちにも鬼籍に入る方々が増えつつ

あるのである。母校野球部OB会には「優勝50周年イベント」「記念誌の発行」など、全国優勝を風化させぬための努力が続けている。これは単に過去の栄光をいたずらに追い求めているのではない。このことが、現役諸君の野球に対する誇りや自信に資すると考えるからである。今回の親善試合もそういった中で、実にありがたく有意義な催しであった。

懇親会は、終始なごやかなうちに進められた。三世代にわたり岐阜高野球部員というご一家の紹介

もあり、さすが伝統ある野球部との思いを新たにしたものである。最後は両校校歌の斉唱があり、まことに盛会であった。

この親善野球大会において特筆すべきは、岐阜高校野球部OB会、学

校当局が湘南高校に示されたホスピタリティである。じつに心のこもったもので、参加した湘南関係者の胸を熱くさせるものがあった。

たまたま夏の甲子園の決勝戦で相まみえたという、まさに「一期一会」の両校だが、校風もきわめて近いものがある。いつの日か三度目の正直となる再々々戦を湘南の地でい、さらなる友情の絆を深めたいものである。（野球部OB 池田 記）



人・生き生き

仏文学者・作家 共立女子大学文学部教授

鹿島 茂さん(43回)



かしま しげる

昭和 24(1949)年生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。現在、共立女子大学文学部教授。19 世紀のフランス社会を専門とし、作家として当時の風俗を活写したエッセイを数多く執筆。また、古書コレクターとしても知られる。1991 年サントリー学芸賞、1996 年第 12 回講談社エッセイ賞、1999 年第 51 回読売文学賞を受賞。主な作品に『馬車を買いたい!』『デパートを発明した夫婦』『子供より古書が大事と思いたい』『パリ五段活用』『情念戦争』などがあり、著書多数。

<湘南高校時代の思い出>

僕は、横浜金沢区出身で学区外で湘南に入学したんですが、いろいろなタイプの生徒に合わせようとして苦労した中学校時代とは、教育環境が大分違い、みんな秀才だったから楽でしたね。湘南は、何でも自由でよかった。特に図書室には大恩があります。図書コーナーのここからここまで読んでやると決めて読みふけったり、さぼってずっと読んでいたこともありました。高校時代は、まだフランス文学をやろうという気持ちはなく、国文、特に古典を読んでいました。これだけは自慢できるのですが、『平家物語』をちゃんと原文で読み通しました。だから高校で一番できたのは国語で、英語はあまりできませんでした。

湘南の先生方では、数学の竹下直之先生が印象に残っています。僕は数学ができなかったのですが、竹下先生は、数学というものは数を解けばいいというものではなく、同じ問題を別解でどうやって解いていくか、つまり、答えをすぐに出すのではなく、いろいろな考え方の過程を学ぶことが大事だと教えてくれました。この考え方は、のちの僕に影響を与えています。拙著『文学は別解で行こう』の書名の由来はここから来ています。湘南の先生方は、みんな学識が深かった。

湘南での部活動は、最初吹奏楽部に入りました。ドラムをたたいたのですが、リズム感がないことを悟り、

半年ぐらいでやめました。また、湘南は体育が盛んで、マラソン、なわとび、水泳、盛りだくさんでしたね。湘南はなわとびが好きなんですよね。僕は苦手ですね。水泳はほとんど緑色がかったプールで泳いだ記憶があります。2 年生の時、7 月何日かに水泳大会があったんですけど、ちょうどその時、モダンジャズの巨頭 J.W.コルトレーンが来日公演をして、僕と長谷川耕造君と大野真二君と三人で見に行っただけです。コルトレーンは翌年死んでしまったので、水泳大会にもかかわらず、コンサートを見に行ったことは偉いと自分達をほめたことを覚えています。

長谷川君と最近、いっしょに彼の伝記の本を出したのですが、高校時代いろいろ経験したことが今になって生きていると話し合っただけです。勉強のかたわら、3 人で映画を見たり、ジャズを聞いたり等、無駄というか、余計なことが自分の感性を養う上で随分役立った。「All work and no play makes Jack a dull boy.」勉強ばかりやっていると、ジャックはつまらない子になってしまうというわけです。勉強して大学に入ることも重要なことですが、役立つか役立たないかわからないことをたくさんして、いろいろな窓を開き、いろいろな見方を身に付けることが大事だと思います。なお、3 年生になって東大を受験する時は、本当に一生懸命勉強しました。今の湘南生には、やる時はしっかり勉強しなさいとアドバイスしたい。特に語学、英語は高校の時にしっかりやっておかないと、大学で本格的にやる機会をなくします。

<フランス文学をめざしたきっかけ>

僕らが東大に入学した年は、大学紛争が荒れ狂っていた時代で、入学して 1 ヶ月半もしないうち、翌年 11 月までストライキで授業がなかったんです。スト終了後いきなり授業再開となって、スト賛成派で全然勉強をやっていなかった僕らは、英語にしろ、フランス語にしろ、基礎学力がついていなかった。特にフランス語は、何も勉強していないのに、教科書が終了という前提で試験です。<やばいな。いくらなんでも。>ということで、友人 6 ~ 7 人で「フランス語 1 週間」という独学のための講座を作って、友人の下宿や喫茶店で一生懸命勉強しました。それで何とか語学は受かったんですが、自分でそこまでやれたんだから、フランス語を捨てずにもう少し続けてみようという気持ちになりました。

駒場から本郷へ進学した時点では、英語の方がいいかなと思っていました。大学の説明会があって英文科の先生のところに行ったら、その先生は真面目そうな謹厳実直な顔をしていて、僕とは合いそうもないと思った。それでフランス文学の方に行ったら、とてもいい顔の先生がいちゃって、できない学生でも許してくださるだろうと、もう顔で決めました。この先生が、のち僕の恩師となった山田爵先生です。森鷗外・の孫で、ご尊父は東大仏文の山田珠樹先生、ご母堂は森茉莉さんで、すべてに尊敬できる先生でした。権威

主義的な先生ではなかったため、かなり自由にできました。

こうしてフランス文学を専攻することになった訳ですけれど、今までが独学であったため、基礎ができていなかった。東大は結局5年いたんですけれど、日仏学院などにも通って、さすがに根性入れて勉強しました。内定していた就職も蹴って、フランス文学をやろうと大学院に入ったんです。当時、僕は年400本も映画を見るものすごい映画青年でした。だから、映画監督になりたいと思ったんですけれど、もう映画は斜陽産業で採用がなかった。それではないからフランス文学をやるという気持ちになったんです。

<19世紀のフランス文学研究に目覚めた契機と、作家としての助走>

運命のいたずらというか、まだ留学も経験していないのに、補欠の補欠という感じで、東大大学院博士課程3年で、共立女子大学に就職が決まってしまいました。この時になってフランス文学をもう一回やり直してみようかという気持ちになりました。

ただ、当時は構造主義の文学理論が流行していて、<どうだ、どうだ。俺の方がすごいだろう。>と頭の良さをひけらかす風潮があって、僕も僕なりに頭をひねって、構造主義の映画理論家クリスチャン・メッツの『映画と精神分析』という難解な本を訳したんです。その過程で自分にはこの方向は向いていないと気づき、自分の得意なことは何なんだろう、どうでもいい細かいことをねちねち研究するほうが、結構自分に向いていると思ったんです。

その時、河盛好蔵先生がこうアドバイスしてくださいました。<今の若い人はこういう難しいことをやっているけれど、これは言ってみれば、フランス文学という、大変大ぶりの美味しい魚の身を全部捨てて、骨をしゃぶっているようなものです。一番つまらないことを一生懸命やっている。もっといくらでもおもしろいところがあるでしょう。>と。僕はがく然として、ああそうかと思ったんです。そこでバルザックを中心に、フランス文学が最盛期を迎えた19世紀の研究を本格的にやり出したんです。僕は、河盛先生の『歓楽と犯罪のモンマルトル』で翻訳を手伝ったんですが、そこでパリ風俗のおもしろさに目覚めました。今までパリ風俗なんかは好事家の仕事で、研究の対象となるものと思っていたんですが、僕は自分のめざす鉅脈がここにあるとわかったんですね。

その時、30歳前後だったかな。逆にそのことが幸運だった。20歳前半で自分のやるべきことを早く決めてしまうと、自分の資質に合わないことをやっていたかもしれない。僕は、学生には<人間には資質というものが決まっている。>と話すんです。その頃から古書集めが始まりました。ようやく自分の方向性が見えてきたという感じで。また、本を書き始めたのは、37、8歳だったかな。一つのことばかりやって秀才といわれた人が、大学教師になったとたん人生終わり

となるケースが実に多いのです。また、若くて自我の強い作家は、格好いいことを言って、自分の考えをすぐに発表し、世間の喝采を浴びたいと思うでしょう。そうすると、すぐに書くストックがなくなってしまう。河盛先生は、<何かしようと思ったら、その準備に最低10年かける。>とおっしゃっていました。僕は長い間いろいろ翻訳などをやっていました。古書なり、史料を集めるのに10年ぐらいかけ、自分のやりたいことも10年やって、同時に並行していくつかの生涯のテーマを決めて、とにかく10年間助走としていろいろやりました。そうしないと、さあ書こうと思って、史料がない、テーマがないということになってしまう。僕がどんどん本を書くのは、他の人が書いてくれないから、こういう本があったらいいなと思って書くわけです。

<19世紀フランス文学の醍醐味>

19世紀当時の文献、たとえば、新聞など原史料を読むと、一つのことがわかってくるのです。時代を超えて残るものは純理論的なものか、その反対にリアリズムに徹したもの、つまり、細部にはちゃんと生命が生きているものです。僕には、どの時代にも当てはまる純理論的なものは向いていないから、細部から攻めて過去を蘇らせる方向が自分に向いていると思いました。その細部が一番豊かだったのがバルザックでした。金とか女とか、彼の俗物としての大きさが文学に反映する。自我の巨大さ、彼のような人間がそばにいたらたまったものではないでしょうけれど。

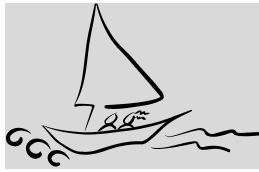
ところで、最近の拙著『情念戦争』に関する<情念(パッション)とは何か>という御質問に対する答えですが、情念というのは自分にかけてられたマイナスの負荷と考えています。僕は、人間はそれぞれ生まれ持ったパッションが決まっているとしか思えないのです。自分でパッションの質を見抜けないと、間違ったパッションの方向に行ってしまう、つまり資質を見抜けと言うことです。快樂原則というものがあって、僕の場合、途中で難しいことをやめて、風俗みたいな細かいことを研究するのがとても楽しいし、その方向で行けたということです。この本に登場するナポレオン、フーシェ、タレーランを見ればわかりますが、持って生まれた情念に従った時に、はじめて巨大な人間になれるということです。僕のめざすものは最終的には人間学に帰着する。これだけおもしろい人間がいて、こんなにすごいことをやっている。人間にはこれだけの可能性があるんだと。

—大変ありがとうございました。私たち同窓は、先生のご活躍を今後も祈念しております。<平成15年12月21日千代田区一ツ橋の先生の事務所に>

聞き手：遠藤^㉔、柏木^㉕、服部^㉖

(文責 柏木)

2004 年湘友会アレコレ



80 周年記念誌・記念品（絵はがき）販売中

母校創立 80 周年を記念して発行された「記念誌」と「絵はがき」（教員・先輩寄贈の校内展示絵画 8 枚組）を残部がある限りでお譲りいたします。

価格は「記念誌」1800 円、「絵はがきセット」700 円、共に送料込みの値段です。購入希望者は、郵便局備付けの払込取扱票に氏名、卒業年次、住所、品目数を記入して下記口座に送金下さい。入金確認後直ちに発送します。

00260-7-13577 湘友会

絵はがきに収められている絵画は次の 8 葉です。

- 「烏森」塚本 茂（元美術教諭）
- 「パンジーのある静物」山下大五郎
- 「ピンのある静物」三浦次郎
- 「アネモネ」鈴木 清
- 「6 月の港」石川滋彦
- 「辻堂風景（落日）」甘糟三郎
- 「城ヶ島」小泉元生
- 「Ist の見える丘」澤 昌男²²（元美術教諭）

（セット 8 枚の内）

「Ist の見える丘」

会報編集部から寄稿に関するお願い

毎年 3 月末までに届いた同期会、クラブ OB 会、各種湘友会などの記事は、会報に掲載できます。連絡先明記の上、A4 版用紙に記事（横書き、300 字程度）や写真（1 枚）などをまとめて事務所に直接お送り下さい。もちろん電機的にフロッピー・ディスク直送（windows 版）、メール添付も歓迎です。ただし、3 月末の締切期限厳守です。

本年号の記事に、クラス会のお便りもいただきクラス単位の楽しい集いが伺え、同慶の至りです。しかし、今後ミニ集会の記事が増えると、紙面不足も考えられます。次号からは、「同期学年全体にわたる集い」「同窓会全体に呼びかける集い」「クラブごとの OB 全体の催し」について会報に掲載する旨の基準を設けさせていただきます。判断不明のときは、事務所にお問い合わせ下さい。

ご協力よろしくお願いいたします。

湘友会会員数 2004

2004 年 3 月の新入会員は合計 641 名で、内訳は全日制 353、定時制 50、通信制 238 でした。その結果、2004 年現在の会員数は、判明している物故者を除いて 46,000 名を越えました。

湘南高校新入生 2004

今年の入学者

全日制	男子 160 名	女子 157 名	計 317 名
定時制	71	55	126
通信制	63	94	157
少年工科学校	285	-	285

湘友会ホームページ

<http://www.shoyukai.org/>

湘友会はホームページを開設以来、4 年間に 7.4 万回の閲覧を記録しています。湘友会報そのものに加え、支部の例会やクラブ OB / OG 会の予告、母校の行事などをご覧になれます。ホームページならではの情報も楽しんでいただけます。

湘南卒業生の間のメーリングリスト

- 湘友会としては直接関与していませんが、加入者間で公開のおしゃべりや情報交換する「メーリングリスト」があります。湘友会員は誰でも加入できます。
- 加入手順を概略すると、
Majordomo@shonan.dhs.org/ あてに、以下のコマンドを e メールで送って下さい。
Subscribe Shonan@shonan.dhs.org [あなたの e メールアドレス] end → 加入意思確認のやり取りのあと、メールが届き始めます。
- 入会后メールを送る（掲示する）場合は
Shonan@shonan.dhs.org に送ります。

後記

湘友会報は上記ホームページで見ることができます。

会員の住所変更については、湘友会ホームページ、E-mail、はがき、または FAX で、湘友会事務所宛お知らせ下さい。特に物故者については、連絡者を明記して下さい。

来年 2005 年の総会運営は、卒業年次末尾 5 の方々が中心になります。

35 回生、45 回生、55 回生、65 回生の皆さん、出番です、よろしくお願いします。

第 46 号の編集スタッフ

（略）